

平成 25 年のアユ資源調査結果概要

寺井 章人・桑村 邦彦・田中 秀具・井戸本 純一・
上野 世司・臼杵 崇広・吉岡 剛・佐野 聡哉

1. 目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群分布調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群分布調査は、1 月から 8 月まで毎月 1 回、北湖の水深 30m 等深線付近の定線調査コース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査は、8 月から 10 月にかけて 5 回、北湖に流入する 11 河川の産卵場においてアユの産卵数を調査した。

ヒウオ生息状況調査は、10 月から 12 月まで毎月 1 回、北湖において網口 1m×2m の角

形幼生網による 1,000m の水平曳きを 18 回行い 1 曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査は、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長および体重を測定した。

3. 結果

魚群数は平年の 10～40% で推移した(図 1)。産卵数は 45 億粒で平年の約 40% であった(図 2)。ヒウオ生息密度は、10 月のみ平年を大きく上回った(図 3)。漁獲魚の平均体長は、ヤナの 3 月、4 月は平年をやや下回ったが、ほぼ平年並みの推移を示した(図 4)。

これらの調査結果は水産試験場ホームページに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

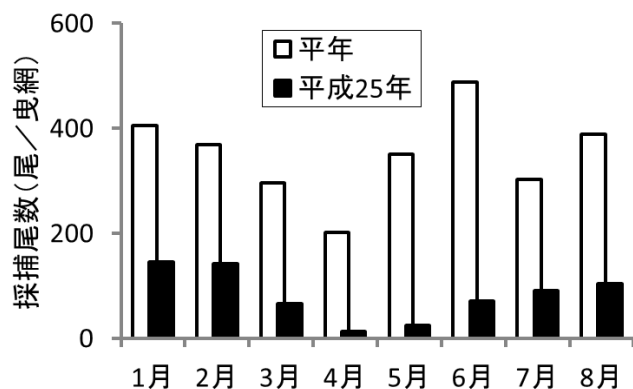


図1 魚群数の推移
平年値は過去 10 年から最大最少および欠測年を除いた平均値

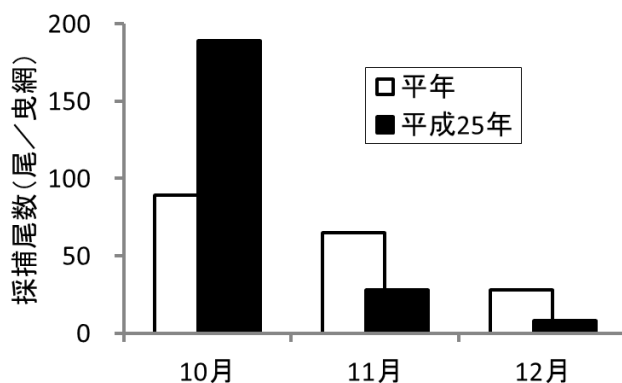


図3 ヒウオ生息密度
平年値は過去 10 年から最大最少および欠測年を除いた平均値

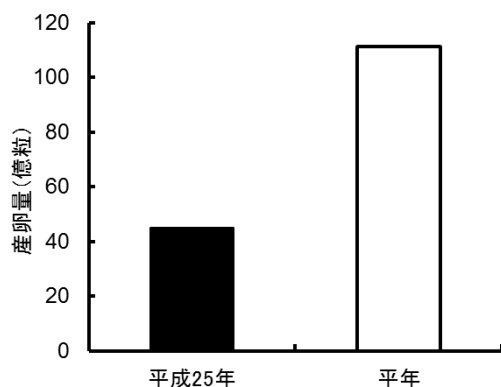


図2 天然河川における産卵数
平年値は過去 10 年から最大最少および欠測年を除いた平均値

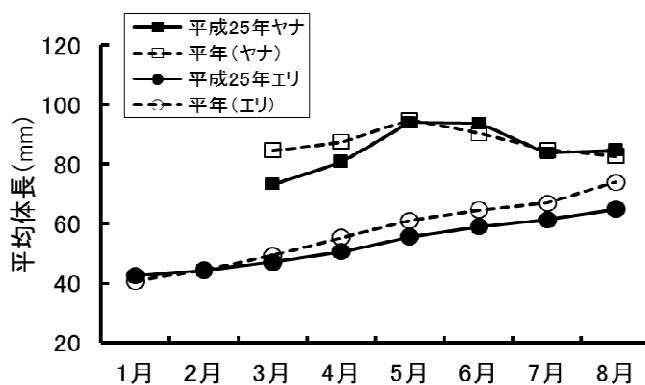


図4 エリヤナ漁獲魚の平均体長
平年値は過去 10 年から最大最少および欠測年を除いた平均値